

科目ナンバリング		G-LAS12 80039 LJ44					
授業科目名 <英訳>	AI技術利活用実践 AI technology utilization practice			担当者所属 職名・氏名	経営管理大学院 特定教授 前川 佳一 経営管理大学院 特定教授 藤田 哲雄		
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	統計・情報・データ科学系		使用言語	日本語
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中 9月28日(水).29日(木)		配当学年	大学院生	対象学生 全学向
(経営管理大学院, 情報学研究科の学生は, 全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
【授業の概要・目的】							
<p>(旧科目名：先端技術利活用実践)</p> <p>世界がデジタル化に向けてスピードを加速させていくなかで、AIを代表とする先端技術も凄まじいスピードで進化を遂げている。このような世界において、いかに新しい技術に触れ、それを使いこなしていくかは、これからのビジネスパーソンにとって重要な要素である。そこで本講義では、AIのような新しい技術をいかにビジネスに活用していくかを、手法や意識しておくべきマインドセットと共に実践形式で学びながら習得する。また、それと同時に、先端技術の動向について、現在のトレンドと今後の展望を掴む。</p> <p>【情報学ビジネス実践プログラム科目】協力企業(ANAシステムズ、NTTデータ、DMG森精機、東京海上日動火災保険、三井住友銀行・日本総合研究所、日本電気)と設立した「情報学ビジネス実践講座」にて行う「イノベーション先端ITコース」の科目であり、本コースは産業界でイノベーションをリードするための先端のITを学ぶことが可能。詳細は講座ホームページ(<a href="https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/pib/">https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/pib/</a>)参照</p>							
【到達目標】							
AIに代表される先端技術を活用するサービスのアイデアを考え、実現の仕方まで経験することを目指す。							
【授業計画と内容】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端技術概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AIやVRなどを含む様々な先端技術の概要を理解する</li> <li>・ それぞれの先端技術についてビジネスでの活用例を紹介する</li> </ul> </li> <li>2. ビジネスのWhy <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題発見からビジネスの企画構想の方法を説明する</li> <li>・ リーンキャンパスやCustomer Value Chain Analysis、ペルソナなどの一般的なビジネスフレームワークを理解する</li> </ul> </li> <li>3. ビジネスのWhat <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスの企画構想からサービス(プロダクト/アプリ)のデザイン手法を説明する</li> <li>・ カスタマージャーニーマップ、ユーザーストーリーマッピングなどの一般的なサービスデザイン手法を理解する</li> </ul> </li> <li>4. 先端技術を活用したビジネスを考えてみよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10年後の社会におけるAIやVRなどの先端技術の活用シーンをワークショップ形式で考える</li> <li>・ 検討したアイデアを共有し、フィードバックをもらう</li> </ul> </li> <li>5. ビジネスのHow <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスを実現するために、AIなどの先端技術を使ったアプリ開発の仕方について、アジャイル開発を例に学習する</li> <li>・ 実際のビジネス現場での開発作法を理解する</li> </ul> </li> <li>6. アプリを作ってみよう その1～まずは準備から～ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Gitなどのアプリ開発に必要な道具を備える</li> </ul> </li> </ol>							
AI技術利活用実践(2)へ続く							

## AI技術利活用実践(2)

- ・実際にどうやってアプリ開発を進めていくのか、ハンズオン形式で学習する
- 7. アプリを作ってみよう その2 ~動かしてみよう~
- ・身近な課題を題材に、アプリのプロトタイプを作成し、動かしてみる(アプリ内容は検討中)
- 8. アプリを作ってみよう その3 ~オリジナルアプリにしてみよう~
- ・プロトタイプにオリジナルの機能を追加する(内容は検討中)

非常勤講師のNTTデータ大西 壮輝氏は、DXを推進する為の研究開発やデジタル技術を応用したサービス創出に関する戦略検討を担う。

### 【履修要件】

受講人数を制限することがあります。その場合、情報学ビジネス実践講座プログラム(<https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/pib/>)登録者を優先します。

### 【成績評価の方法・観点】

講義でのディスカッション等への貢献度、プレゼンテーション等の内容、講義終了後に提出されるレポートにより総合的に判断する。

### 【教科書】

使用しない  
特に定めない。必要な資料は講義において配布する。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する  
(関連URL)  
<https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/pib/>(情報学ビジネス実践講座)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

受講に際し情報やITに関する特別の知識は必須ではないが、講義の効果を高めるため事前予習を課す場合がある。

### 【その他(オフィスアワー等)】

事前にアポイントメントをとること。  
[maegawa.yoshikazu.5m@kyoto-u.ac.jp](mailto:maegawa.yoshikazu.5m@kyoto-u.ac.jp)